

## 養殖、加工の研究成果 生徒が発表

# 八戸水産高の活動知って

## 航海実習船とライブ中継も

八戸

青森県唯一の水産・海洋系高校である県立八戸水産高（中川伸吾校長）の活動を広く知ってもらおうと、「応援プロジェクトフォーラム」と題したイベントが17日、八戸グランドホテルで開かれた。生徒が研究成果を発表したほか、米ハワイ南西海域で国際航海実習に当たっている実習船「青森丸」の映像をライブ中継し、同校の特色ある取り組みを参加者に紹介した。

（松原一茂）

八戸工業大、八戸学院大、八戸高専による「八戸水産アカデミー高等教育部門」の主催。八戸水産高や大学の関係者、地元水産関係者ら80人以上が参加した。研究成果の発表会では、海洋生産科3年の上平侑摩さん、坂本響さん、吉田琥詠さんの3人が、アブラメの養殖技術確立に向けた取り組みを説明した。水産食品科3年の大塚悠世さん、秋田凜さん、福田結菜さんの3人は、県産ホタテやゴボウなどを使ったフリーストライ

（真空凍結乾燥）製法によるスープの開発について紹介した。この後、漁業実習で操業中の青森丸の映像を大型スクリーンでライブ中継。船に乗り組んでいる生徒たちは実習内容などを説明し、「先ほど30分くらいのメバチマグロが取れました」といって報告した。

会場には、青森丸が漁業実習で漁獲したメバチマグロの料理が並び、参加者が試食して味わっていた。